

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473500591	事業の開始年月日	平成17年7月1日	
		指定年月日	平成17年7月1日	
法人名	株式会社 保健科学研究所			
事業所名	グループホーム さくら園			
所在地	(〒244-0845) 神奈川県横浜市栄区金井町1600番地			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成24年1月15日	評価結果 市町村受理日	平成25年5月16日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここさくら園は、大変豊かな自然に恵まれた、静かでどこか懐かしさを覚える環境です。その季節をなるべく多く感じてもらうため、季節折々の行事を提供しています。例えばお花見であったり、流しそうめんであったり、環境を活かしたコミュニケーション作りをしています。又、地域との合同企画にも力を入れ、先日は地域の方と地域の消防団と合同の避難訓練を実施しました。総勢100名程の参加があり、益々繋がりを深めて参った所です。今後も絆を大切に、心豊かな生活が送れるよう支援してまいります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年3月19日	評価機関 評価決定日	平成25年5月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇地域に根ざした事業所 ・自治会、消防署と三者で消防応援協力覚書を締結している。夜間想定避難訓練は、地域住民と消防団の合同避難訓練で行った。地域住民、消防団と併せて約100名が参加した。 ・地域の祭りに、事業所は駐車場を神輿(みこし)の休憩所として開放し、お茶のサービスで参加している。事業所の祭りや、バーベキュー、流しそうめん、クリスマス会は地域の協力の下、恒例行事となっており、地域のたくさんの方の参加がある。 ◇確立したモニタリングの仕組み ・「ケアプラン実施状況とモニタリング表」にケアプランの目標を記入し、職員が毎日○×△で、目標に対する達成度の評価を記入している。1か月分を集計しカンファレンスの資料としている。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇外気に触れる機会の創出 ・利用者になるべく多く外気に触れてもらうため、積極的に散歩・外出を行っている。天気の良い時は30分程度をかけて近隣を散歩している。長時間歩行が不可能な利用者は玄関先のベンチで外気浴をする。季節ごとに花見等で遠出の外出をしている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	ひばり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の皆様との連携も年々向上され理解と実践に繋がっている。	・利用者本位のケアと地域融合を基本理念とし、事務室、各フロアに掲示している。毎年フロア毎にユニット目標を職員の話合いで作成し和室の壁に掲示している。 ・年間内部研修のカリキュラムに取り上げ職員が確認・共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常のお散歩では挨拶が自然にできるようになっている。地域の方より菊の花を頂いたり、園の行事にも積極的に協力・参加して頂いている。	・自治会に入会している。地域の祭りには駐車場を神輿（みこし）の休憩所に解放し、利用者が祭りに参加している実感を味わっている。 ・事業所の行事の流しソーメンやクリスマス会には近隣の住民を招待して利用者と一緒に楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座をケアプラザご協力の元、町内会館にて開催した。地域の方にも参加して頂き、理解を深めてもらうきっかけを作った。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の出席者が徐々に増えており、向上に向けて園と一体となった取り組みが段々と出来てきている。又、行政の出席も多いことから、色々な意見交換ができる。	・2ヶ月毎に開催している。家族全員に通知を出し参加を呼び掛けている。多い時は10家族が参加した。 ・長崎でのグループホームの火災の後で、栄消防署長が出席し講演してくれた。予防と訓練の大切さを学んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃の様子を運営推進会議にて報告している。	・生保者の認定等で栄区役所保護課職員から年2~3回の訪問がある。 ・居室に空きが出た場合は区役所高齢福祉課、豊田地域ケアプラザにも連絡している。 ・グループホーム連絡会に参加して同業者と情報交換をしている。	・栄区役所福祉高齢課との連携には、運営推進会議議事録等の資料を材料として利用することをおすすめします。	

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの出入り口・非常口・浴室・倉庫のみ安全という意味で施錠している。ただし玄関は施錠していない。	・内部研修マニュアルに沿って職員研修を行っている。ふだんの何気ない行動が拘束に当たることがあることを職員に認識させている。 ・玄関は施錠していない。若し利用者の無断外出があっても地域の人が気づき連絡してくれる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修にて学ぶ機会を設けている。日頃の言葉使い等にも虐待に繋がらないように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は必要な方に支援している。内部研修にて勉強会を行っているが、これからもっと取り組んで行くべき所である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネージャー、ユニットリーダー立会いの下、契約を結んでいる。疑問点はその際ご理解いただけるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ボックスを玄関に設置。年6回の運営推進会議にて意見交換を行い、要望を伺っている。季節行事等にもご家族様の意見を反映させている。又、家族便りにて日頃の様子をお知らせしている。	・運営推進会議になるべく多くの家族に参加してもらえるよう努めている。利用者の外出について、介護度が上がり、年々行き先が限定されてきているが遠出しなくとも安全で楽しければ良いのと家族の意見があり、その実現に努めている。	

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや、ユニット会議にて話し合う機会を設け、反映させている。	・職員の意見は管理者会議、ユニット会議で聞いている。ユニット会議で職員が話し合い、利用者の見守り強化策として、記録をつけるのは和室側のテーブルで行うことを徹底し、夜間のトイレの時間は利用者に合わせて変えることも申合せた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年々向上していくよう努めている。勤続年数の長い方が多い。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内・外部研修を行うことで質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列の他グループホームや小規模多機能などに出向き、認知症サポーター養成講座を一緒に受講するなどし、理解を深める努力をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時には先方に出向き、今までの事やこれからのことについて、ご家族様やケアマネージャー様を交えながらしっかりと話しを聞くようにしている。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なるべく時間をかけて、十分に納得できるように話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コミュニケーションを大切にし、信頼関係を築くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	衣食住、暮らしを共に過ごす者同士、家族のような付き合いができる関係を保てるよう心がけている。又、人生の先輩として尊敬する心を忘れないようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の架け橋になるように、絆を深める努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	電話や手紙などでコンタクトを取って頂いたり、面会や外出などで関係が途切れないう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入所前に通っていたコーラスに月一度出かけている利用者がある。以前住んでいた隣人が利用者を訪問している。 ・事業所の電話で毎日、決まった時間に電話をしたり、手紙を書いている。 	

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日課の散歩やレクリエーションにて利用者同士関わりが持てるように支援している。又、孤立しがちな利用者には職員が間を取り持つよう声掛けし、交流を図れるような努力をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方を訪問、面会に行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生き立ちや生活のリズム、趣味など要望を聞き、なるべく希望に沿った暮らしができるよう支援している。	・職員は、出勤時業務につく前、利用者の顔を見て挨拶しその日の利用者の状態の把握に努めている。表現不自由者には表情や仕草で意向を汲み取ることにしている。入浴時は利用者と2人きりになるので、思いを聞く良い機会になる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族と本人にヒヤリングをし、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時にひとりひとり挨拶し、顔色を見ながら、その日の状態をつかむようにしている。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のモニタリングやユニット会議にて、意見を交換し合い計画作成をしている。	・ケアプラン実施状況とモニタリング表にケアプランの目標を記入し、毎日○×△で、目標に対する達成度の評価を記入している。1か月分を集計しカンファレンスの資料としている。家族の意向は来園時に聞き取りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録のほかに、特記事項は申し送りノートにて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊の支援や、突発的な事柄等、家族だけでは対応できない部分については、必要に応じてサポートしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との交流を大切にし、町内行事に参加したり、大家さんのみかん畑に招待していただいたり、地域と利用者様が一体になれる場面づくりをしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療では、本人と家族の要望を聞きながら、対応している。又、入所以前よりお付き合いのあるかかりつけ医との関係も保っている。	・利用者は、家族の同意を得て協力医と契約している。月2回内科医の往診がある。 ・内科以外の治療には家族の支援で入所前のかかりつけ医に通院している。	

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護では、園とナースの間に報告ノートを設け、その時の変化や気づきを記入し、こちら側の要望と相手側対応処置を細かくやり取りしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診や、訪問看護にて新しい情報を伺っている。又、直接面会し本人の様子を確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一部、今後のケアの方針について御家族様より同意頂いている方もいるが、今の所、ターミナルを行なう予定の方はいない。	・利用者の重度化の際には、家族、協力医、事業所の三者で協議し、今後のケアの方針を決めることにしているが、事業所として医療行為が出来ないなどの限界があることを家族に説明し了解を得ている。	・将来のために、終末期に関する職員研修の実現を望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修やマニュアルにて学んでいる。年2回の消防訓練にて応急手当を学ぶ時もあるが、実践力は全ての職員にあるとはいえない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団との合同訓練を行い、地域との協力体制を蜜に図れるような関係作りを構築している。	・自治会、消防署と三者で消防応援協力覚書を締結している。夜間想定避難訓練は、地域住民と消防団の合同避難訓練で行った。地域住民、消防団と併せて約100名が参加した。 ・備蓄品はプレハブ事務所に保管している。	

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った言葉使いや声掛けをすよう努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊厳について職員研修を行っており、内部研修においても確認しあっている。 ・事業所は「親しき仲にも礼儀あり」をモットーに、節度ある関係を心がけ、援助が必要なときも利用者それぞれに合った、配慮ある言葉かけを職員間で共有している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思表示できるような雰囲気を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な時間には趣味を楽しんでもらったり、気分が乗らない時などはゆっくりしてもらう等、配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは本人の希望を聞きながら一緒に揃えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合った食事の形態にしている。嚥下の体操や歌などで楽しく食べてもらう工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所は、配送食材を利用している。行事や誕生会では、本人の希望のメニューに差し替えるなど、柔軟に対応しているほか、赤飯、ちらし寿司などのリクエストにも応えている。また、中華料理の職人だった利用者を中心に、職員も一緒に餃子や焼きそばを作り、利用者、職員ともに楽しみながら変化ある食事を提供している。 	

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事で栄養が十分に取れない方は、主治医より栄養ドリンクを処方してもらい、偏らないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で行なえる方は声掛けにて。それ以外の方は、見守り、介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	能力を失わないよう、そわそわしたり様子変化を見逃さないよう注意している。又、個々のパターンを把握し、時間で声掛けするよう心がけている。	・介助の必要な利用者には、個人に合った誘導や見守りをさりげなく行い、夜間は声をかけ、なるべくトイレでの排泄を支援している。 ・入院で要介助となった利用者が退院後、ケアプログラムを立て支援した後、自立となった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩にて体を動かしてもらい、スムーズに排便できるよう支援している。又、必要な方には薬の処方もして頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調を考慮しながらのローテーションにて提供している。	・事業所では「入浴は心情を吐露する場でもある」と考え、一人ひとりゆったり入浴していただいている。 ・入浴剤のほか、菖蒲湯、ゆず湯などで季節感を大切にしている。 ・個人の入浴習慣を尊重しており、同姓介助にも対応している。	

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足浴をして頂いていることで、安眠に繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量について理解してもらうために、全職員に服薬、薬セットに携わるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	挨拶当番表にて、食前食後に号令を掛けて頂いている。当番をすることで張り合いを持たせている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月決まった所に外出されていた方には、これからも継続できるよう、家族の協力の下、支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所は長閑な田園の中にあり、車椅子や手押し車を使用する利用者も一緒に天候を見つつ、職員とともに毎日散歩に出かけ、咲く草花に季節の移ろいを感じている。近在のお寺の池での鯉の餌やりも楽しみにしている。 ・江ノ島、東京タワー等々、遠出もしており、利用者や家族にも喜ばれている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使える機会は少ない。又、トラブルを防ぐため、入居時に説明し、持ち込まないことにご理解いただいている。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望を聞き、自由に連絡を取って頂いている。又、お友達や御家族様からの連絡も取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、職員の手作りカレンダーにて季節感を出している。温湿度計に注意し、BGMを流したりし、気持ちよい空間作りをしている。	・居間は東南に向き、十分な採光である。南側の大きな桜の木は、時期には室内からも、見事な桜の花見ができる。壁面には利用者一人ひとりの、職員による手作りプロフィールや利用者の書道、手芸、季節の作品などが展示され、生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じ趣味を楽しんでいる方や、一人で新聞を読まれたり、和室にてテレビをご覧になっていたりと、比較的自由な時間を過ごしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでいただき、今までの生活とあまりかけ離れないよう、安心できる工夫をしています。	・居室はすべて馴染みの物を持ち込み、ベッドになじまない理由で布団を敷いたり、壁に作品や写真を飾るなど、個人の好みに任せて暮らしの雰囲気をつくっている。 ・居室ドアには安全確認のためのガラス窓あるが、本人の意向でカーテンをかけている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・洗面・トイレ・お風呂などにプレートをつけ、混乱なく生活できるよう配慮しています。		

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	うぐいす

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着を心がけ、地域に根ざした関係作りを目指し、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事に参加して頂いている。又、毎日のお散歩での挨拶、会話が日常となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の消防団と合同の大規模な訓練を行なった。地域の方と消防団含め、100名の参加が得られ、地域貢献に繋がった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず実施している。意見も回を増すごとに活発になってきており、身近な意見を聞き反映させる場所となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、連絡・報告をしている。又、運営推進会議でも日頃の様子をご報告させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にてマニュアルに基づいた勉強会を行った。今後も身体拘束をしないケアに努めて行く。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	些細なことも虐待行為にあたるという意識を持ち、利用者様と接する。又、言葉使いにも注意を払うよう心掛ける。継続的な研修も行なっていく必要がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、これから必要になって行く分野であるため、積極的に学ぶ機会を持っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネージャー、ユニットリーダー立会いの下契約を結んでいる。疑問点はその際ご理解いただけるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の運営推進会議にて意見交換を行なっている。又、ご面会時に要望をお聞きし反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や、管理者会議にて意見交換している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績や勤務状況に応じて登用させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行い、質を高める努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	談話会や、研修に参加し、パイプを太くする努力をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な時は、家族に頻回に会いに来てもらったり、本人との関係を深めるように会話やコミュニケーションを多くとるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話をし、信頼関係を深める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々ニーズにあった対応をするように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちを尊重しながら、職員が家族と本人の間に立ち、橋渡しできるような関係を築く努力をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を傾聴し、代弁者となれるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	お友達や親戚に面会に来ていただいたり、手紙や電話など自由にできる環境を作っている。退所した方に訪問することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ここに暮らすひとつのチームとして楽しくレクリエーションなどを行ないながら係わり合い、支えあうよう支援に努めます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の移動先に必要な情報を提供している。時に面会も行なっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃、良く口にしてしている事柄に耳を傾け、できるだけ希望に沿う様にユニット会議等で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	モニタリングを毎日行なうことで、把握している。必要に応じてケアプランを立て直す等努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもの様子と違う等感じた時は、必ず申し送り、状況を把握することで、リスクを軽減することができる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりにアセスメントしてもらい、ケアプランを作成している。その為、色々な角度で状況を知ることができ、内容の濃いケアプランができる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを元にカンファレンスをし、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問美容やマッサージ等柔軟なサービスが提供できるように努力している。又、新たな要望にも応えられるよう対応していく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の和太鼓クラブに演奏に来て頂く等し、地域交流に努めている。又、これからも継続できるような関係を築いていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診があり、希望に沿った医療体制を取っている。他の専門医に受診が必要となった場合は紹介状を書いて頂くなどし、連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護では、看護師が割りとなじみであり、要望もいいやすい環境になっている。看護師とのコミュニケーションが、利用者様にとって不安の軽減やストレス発散になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診の医師や訪問看護にて情報を交換している。その際、入院時の様子など細かいも聞くことができる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時々に必要な話し合いをし、今後のケアをどういう方針で行なっていくかを検討する機会を持つようにしている。ターミナルを行なった事は今の所ない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が見につけているということではないが、どの職員でも救急の対応ができるように専用のファイルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	つい先日、地域の方と地域の消防団と消防署の合同避難訓練を行なった。その際、地域の方との連携を図る事ができた。今後も合同訓練を定期的に行ない、連携を深めていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分でできる・やれると思っている方が多い為対応が難しいところであるが、敬意をはかり自尊心を傷つけないよう配慮した言葉掛けをこれからも行っていきたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の洋服をご本人様に選んで頂いたり、レクリエーションの参加や、お散歩など、なるべく本人の希望に副えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望のある方についてはその事を優先に援助できるように支援している。個々のペースに合わせた声掛けを行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や洗顔等こだわりのある方には継続して頂けるよう支援している。又、自分で行なえない方には季節に合った服を準備している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやテーブル拭きなど、職員と一緒にしている。又、『いただきます』のあいさつ等、これからもできる事をやって頂けるよう支援していきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が採りづらい方は少しずつでも飲んでもらえるように、こまめに声掛けを行なっている。食事の提供方法も可能な限り希望にあわせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は、職員が専用の洗浄剤にて洗浄し、清潔を保てるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自分でパットを交換できる方は、1日に決めた枚数を居室に置き、自分でやっていただいている。専用のゴミ箱に捨ててある枚数で、その日の様子を把握している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士が高齢者に合わせた献立メニューになっている。それでも便意のない方は乳製品をとっていただくたり、水分を多く取っていただくようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤を入れてリラックスしていただいている。会話を楽しんでいただく場にもなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方はそのまま継続していただいている。横になりながらラジオやテレビを見ていただくなど、自然に安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は誰でもすぐにわかる様に個別にファイルしてある。飲みこぼされてしまう方には、スプーンを使う等し、工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食べ物のレクリエーションを多く実施している。例えば餃子やおはぎ、巻すし等、利用者様の得意なことを生かしてもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が好きな方が多いため天気が悪くない限り、毎日散歩を実施している。近所の方との交流にもなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため極力持ち込まないようにご理解いただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて自由に連絡を取っていただいている。ほぼ毎日の方もいらっしゃいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床の間には季節の生花を生けてあり、季節感を大事にするよう心がけている。壁には遠足や行事などでの楽しい写真が掲示してある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	懐メロは皆さん大好きで、テレビを見に和室に思い思いに集まる習慣がある。趣味の合った者同士、リビングで将棋を指したりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が季節ごとに衣替えを行い、本人が使いやすいよう工夫していただいている方もいる。お部屋が煩雑になっている時は職員が片づけを手伝いながら清潔を保てるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手洗い石鹸を手をかざすと自動で出るものに交換し、異食などがおきないように配慮しました。又、泡石鹸のポンプを押す力のない方でもスムーズに手洗いが行えるようになりました。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム さくら園

作成日 平成25年5月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化した場合、看取りを希望される家族もいるが、現状は難しく、そのまま入院になったり、特養へ移動されたりしているため、ターミナルケアの実績はない。	協力医や訪問看護、家族との連携を確実なものにして行く。又、研修等による職員の技術向上。	外部研修による、職員の知識、技術の向上。御家族様との具体的な話し合い。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					